

ブラッシング・抜け毛



ブラッシングは、被毛を美しくし、皮膚をマッサージする事により、皮膚病の予防にもなり、また内臓の働きも活発にします。

- ◆抜け毛が体に残ったままだと・・・
 - *からまって毛玉ができ、皮膚の代謝や体温調節がうまく出来なくなり、皮膚病の原因となることもあります。
- ◆毛玉がひどくなると・・・
 - *夏場には熱がこもり、熱中症になりやすくなります。
 - *くしが入らなくなり、バリカンで短く刈らざるを得なくなります。

抜け毛によるトラブルを防ぐためにも、毎日のブラッシングを心がけましょう。

抜け毛のメカニズム

被毛は『オーバーコート(上毛)』『アンダーコート(下毛)』の2種類があり、種類により上毛と下毛をもつ【ダブルコート】上毛のみの【シングルコート】に分かれます。換毛期があるのは、ダブルコートで、シングルコートには換毛期がないため、抜け毛があまり目立ちません。

犬

ダブルコート

コーギー、シェットランドシープドッグ、柴犬、秋田犬、シュナウザー、ポメラニアン、Gレトリバー、Lレトリバー、ジャックラッセル、パグ、チワワ(ロング)、コッカースパニエル、セントバーナード、ダックスフンド(ロング・ワイヤー)など

シングルコート

プードル、マルチーズ、ヨークシャーテリア、シーズー、キャバリア、ダルメシアン、チワワ(スムース)、ダックスフンド(スムース)、フレンチブルドッグ、ビーグル、パピヨンなど

猫

ダブルコート

アメリカンショートヘアー、日本猫、ロシアンブルー、ペルシャ、アビシニアン、メインクーン、ヒマラヤン、チンチラなど

シングルコート

シャム、レックス、アンゴラ、ターキッシュなど



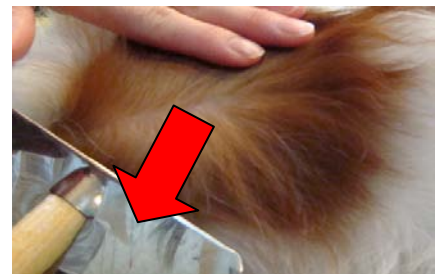
ブラッシングの仕方

表面だけではなく、毛をめくって内側からしっかりかけましょう！毛量の多い子だとブラシが内側まで届かず、抜け毛をきちんと取り除くことができません。

- ① → 片手で地肌が見えるまで毛をめくりましょう。ブラシを持っているもう片方の手で、毛並みにそってブラシをかけましょう。

☞ 毛先から少しずつほどくようにかけるのがポイントです。

☞ 力任せで行うと、皮膚を傷めてしまうことがあるので、気をつけましょう。



- ② → 今度は、毛並みに逆らい、逆にかけます。

- ③ → ①と②を繰り返します。

☞ かけ残しが減り、より多く抜け毛が取れます。



☞ コーム(くし)で、毛もつれや毛玉のかけ残しをチェックすると良いでしょう。

*毛玉が出来やすい場所

耳の飾り毛・首まわり・脇の下・内股・お尻・しっぽなど

☞ スリッカーブラシ・☞ コーム(くし)